## 短期 保険14年度の

が全体の4割、残り6割

## ぜんち共済

## 榎本 重秋社長

と今年度の取り組みについて聞いた。 のニーズに精いっぱい応えていきたい」と語る榎本社長に昨年度の成果 なかったものの、同社の名前は大手企業がひしめく企業部門の中で確か ら、企業部門で最終選考会社の1社に選ばれた。惜しくも受賞には至ら 業や団体を表彰するもので、 同社は400社を超えるエントリーの中か る。当社は障がい者専門の少短として、専門性を生かし、障がい者の方 な存在感を放った。「小規模な会社には小規模な会社なりの生き方があ 会的事業)の健全な発展と理解促進を目指し、社会的課題に取り組む企 んち共済の榎本重秋社長の姿があった。同賞はソーシャルビジネス(社 **大賞」の表彰式の壇上に、障がい者向け少額短期健康総合保険を扱うぜ** 6月2日、日経新聞が主催する「第2回日経ソーシャルイニシアチブ

約者数や保険料収入は着 保険業者として登録を受 は65%を上回るほどの高 けて以降、当社の損害率 を入れた取り組みは。 水準で推移してきた。契 榎本 08年に少額短期 -2013年度に力 に保険料を改 料改定のご案内と契約切 昨年度は保険 げになってし さまにとって まったので、 は大幅な値上 定した。お客 社会に必要とされる会社に

ストを抑えることで10年 の負荷となっていた。コ 損害率の高さが常に経営 実に伸びているものの、 なると判断し、13年2月 は再保険の契約も危うく 度より単年度黒字を維持 してきたが、このままで ほど減少しているが、多 現した。これまでの平均 果、目標だった9%を上 に取り組んだ。その結 り替えの働き掛けを主眼 くの方にご理解いただけ に比べれば継続率は4% 回る92%の切り替えが実 善し、61・8%。経営の 料改定の効果で約4%改 きたい。ソルベンシー・ さらに改善策を講じてい 安定を考えれば60%くら となった。損害率は保険 億3582万円、保有契 マージン比率は637・ いが妥当だと思うので、 たことを感謝している。 約件数は3万6127件 榎本 年間収保は約8



2014年(平成26年)7月14日(月曜日)

く方針だ。 るが、将来的には800 3%。確実に伸びてはい %を目標に取り組んでい

-販売チャネルの現

通販形式の直販

(3)

ことではなく、提携して が進める。強化、とは、 め、複数の県に対応して ているわけではないた 県につき1、2件置くス いる代理店もある。当社 タイルを取っている。現 い。ただし、代理店に関 さらに強化していきた を代理店が占めている。 がい者の置かれている環 いる代理店に対して、障 提携代理店の数を増やす いるが、全県をカバーし 在は42代理店と提携して 同いただいた代理店を1 しては、当社の理念に賛 今後は代理店チャネルを 体とのネットワークを代 会なども開催している。 で時間枠をもらって説明 が集まるようなイベント 理店に紹介し、障がい者 当社が持っている福祉団 訪問などを行っている。 有する支援活動や、同行 -現在の課題は。

件あった新規契約が昨年 切り替えに注力したた 動が通常よりも手薄にな め、新規獲得のための活 規契約。昨年度は契約の て、12年度には5000 ってしまった。結果とし 最大の課題は新

ている代理店の事例を共 する代理店には、成功し 注視していきたい。

や新たな計画は。

円を設定し 入保険料11億 約5万件、収 して、保有契

度は4000件に減少し 施設を対象に営業活動を た、これまでは主に福祉 問題だと捉えている。ま た。これは非常に大きな り組んでいく。また、 約件数4万件を目標に取 にふさわしい商品は何か 害率安定のために、当社

そこで、福祉施設以外に 障がい者が増えている。 設に入らず地域で暮らす も、障がい者を雇用して だ。料率改定でどの程度 た、損害率も課題の一つ いる企業へのアプローチ 福祉の世界も変化し、施 行ってきたが、最近では の損害率を維持できるか などを検討している。ま

榎本 新規獲得施策を

- 4年度の重点施策

新規契約獲得に軸足をシフト たな5カ年計画を策定し いま一度しっかり立て直 いきたい。13年度から新 し、件数増加を追求して 度末の目標と ており、17年

成するためにも今年は契 た。それを達

13年度の業績は。

境やニーズに関する情報

提供を強化し、代理店が

売りやすくなるような仕

組みづくりをすることを

指す。例えば、特に注力

り組んでいる。パソコン は会社の認知度向上に向 ューアルと新規開設に取 けてホームページのリニ 討していく方針だ。まず ということも継続的に検 旬に開設する予定だ。 フォン用ページを9月上 ニューアルし、スマー 用サイトを7月上旬にリ - 今後の事業展開に

また、近年では障がい者 を支援する団体も増えて 社を目指していきたい。 まに喜んでいただける会 いた経営を続け、お客さ ることなく、地に足の着 義がある。そこからぶれ えることに当社の存在意 た。限られた方のニーズ 険会社として産声を上げ の方々専門の少額短期保 ではあるが、その声に応 向けた抱負を。 榎本 当社は障がい者

きた。障がい者へのサポ にも取り組んでいきた 政やNPOなどとの連携 ートは社会的な課題。行